



サイレントブラス パーソナルスタジオ ST7

このたびはヤマハサイレントブラス用パーソナルスタジオST7をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。ST7の機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。なお、ご一読いただいたあとも、不明な点が生じた場合に備えて、保証書と共に大切に保管していただきますようお願いいたします。



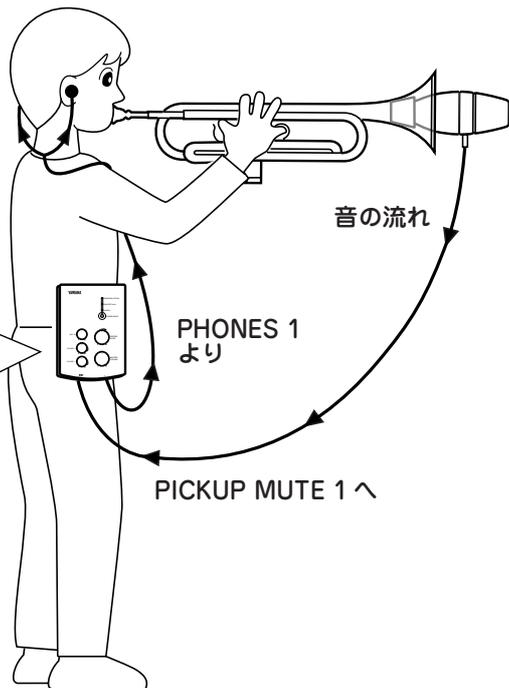
セット内容

- パーソナルスタジオ ST7
- 取扱説明書（本書）

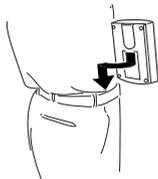
※ ピックアップミュートは付いておりません。

! 電源が入っている状態でコードが抜けると、
機器が損傷するおそれがあります。耳に伝わる
衝撃も大きいので注意してください。

プレーヤー



立って演奏する
場合、ST7裏側
のベルトフック
を活用すれば、と
ても便利です。



※ ピックアップミュート、専用接続ケーブル、ステレオイヤホンは
付いておりません。

パーソナルスタジオST7

周波数特性

PLAYER 1/2 : 200Hz~16kHz, 専用イコライザー内蔵
AUX IN : 20Hz~16kHz

定格入力レベル

PICKUP MUTE 1/2 : -38 dBm (0dBm=0.775Vrms)
AUX IN : -10 dBm
PHONES 1/2 : -10 dBm(負荷150Ω)
LINE OUT : -10 dBm(負荷10kΩ)

リバーブ

デジタル信号処理 : サンプリング周波数32kHz,
AD・DA変換15bits
モード : 3種類(リハーサルルーム、コンサート
ホール、チャーチ)

接続端子(DC10-12V以外はミニジャック)

PICKUP MUTE 1/2 : ピックアップミュート専用
(モノラル) (電源供給と信号入力兼用のため)
PHONES 1/2 : インピーダンス8~150Ωの
(ステレオ) ヘッドフォンに適合
LINE OUT(ステレオ) : 出力インピーダンス1kΩ
AUX IN(ステレオ) : 入力インピーダンス30kΩ
DC10-12V : ACアダプターPA-1D専用

コントロール

マスターボリューム、プレーヤー1/2ボリューム、
AUX INボリューム、リバーブモードボタンおよび
ランプ、リバーブレベル、電源スイッチ、ベルトフック

電 源

ACアダプターPA-1D
単4乾電池×6本(マンガン電池で約3時間、アルカリ電池で約7時
間の連続使用可能)

寸法 111(W)×159(D)×41(H)mm

重量 250g(乾電池除く)

※ 製品の規格および仕様は、改良の際、予告なく変更する場合があります。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

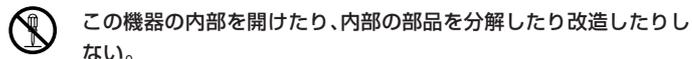
ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

- ⚠ 記号：危険、警告または注意を示します。
- 🚫 記号：禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。
- 記号：行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、PA-1Dを使用する。

(異なった電源アダプターを使用すると)故障、発火などの原因になります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

 電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源アダプターコードに重いものをのせない。

電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因になります。

 電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

 タコ足配線をしない。

コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。

 電源アダプターコードやプラグがいたんだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電、ショート、発火などの原因になります。

 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。

感電または機器の損傷のおそれがあります。

 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。

本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

 テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

 不安定な場所に置かない。

機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

 本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。

コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。

本体が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損する原因になります。

 大きな音量で長時間イヤホン(ヘッドフォン)を使用しない。聴覚障害の原因になります。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

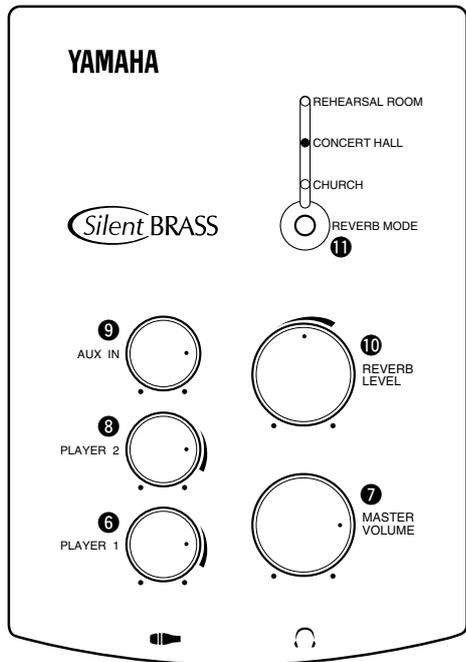
長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。



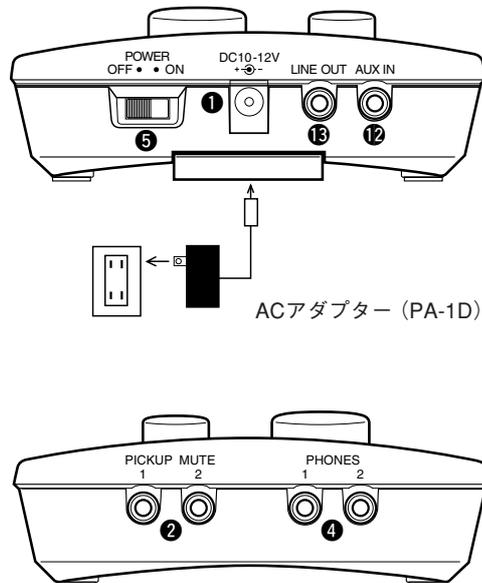
接続／使用方法

パーソナルスタジオST7

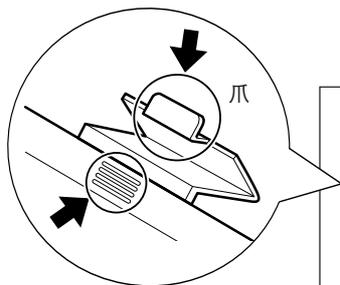
■ フロント(前)パネル



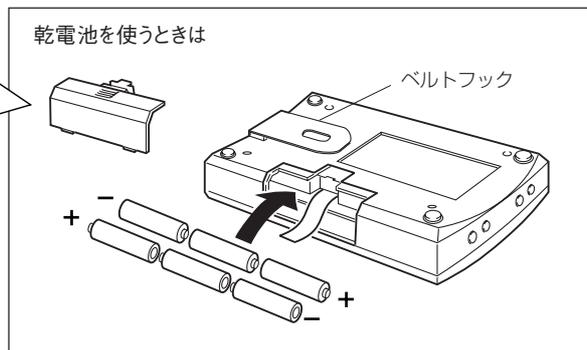
■ トップ(上)パネル



上図は各ツマミの標準的な位置を示しています。



電池カバーをはめる際、4本のラインと同時に爪も押さえると簡単にはまります。



電源の準備

パーソナルスタジオST7は電源として、家庭用コンセントと乾電池の両方を使うことができます。
電源を切った状態で、電源の準備を行ってください。

家庭用コンセントから電源をとるときは

付属の電源アダプターPA-1Dをご使用ください。

1. アダプターのDCプラグをST7のトップ(上)パネルの
①DC10-12V(電源アダプター接続)端子にさし込みます。
2. アダプターのACプラグを家庭用(AC100V)コンセントに
さし込みます。

乾電池を使うときは

1. ST7を裏返し、電池ブタをはずします。
2. 市販の乾電池(単4乾電池)を6本入れます。上記イラストに
合わせて、向きを間違えないように入れてください。

リボンの上に乾電池をセットすれば、電池交換の際に乾電池を取り出しやすくなります。

3. 電池ブタを閉めます。

(乾電池が入っている状態で)電源アダプターを接続すると、電源は自動的にアダプター側から供給されるようになります。ただし、電源アダプターがコンセントにしっかり差し込まれていないと、電源は乾電池側から供給され、電池が消耗します。

 電源アダプターをご使用になる場合は、必ず付属のアダプターPA-1Dをご使用ください。他の電源アダプターの使用は、故障・発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、充分にご注意ください。

-  乾電池はお早めにお取りかえいただくことをおすすめします。
- 電池が消耗すると、
1. リバースが効かなくなる
 2. イヤホンからの音量が不安定になる
 3. ノイズが発生する
- ことがあります。このようなときは、以下のことに注意して乾電池を交換してください。
- 乾電池はすべて十ノ一の極性表示どおりに正しく入れてください。正しく入れていない場合、発火するおそれがあります。
 - 乾電池は一度に全部を交換してください。乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しないでください。また、種類の異なったもの(アルカリとマンガン、メーカーの異なるもの、メーカーは同じでも商品が異なるものなど)と一緒に使用しないでください。発火する原因になります。
 - 長時間使用しない場合は、乾電池を本体から抜いてください。乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。

使用方法

! ケーブルの接続およびミュートの装着の際は、必ずイヤホンを耳から外し電源を切った状態で行ってください。

1. ST7の**②**ピックアップミュート1端子とピックアップミュート出力端子を付属の専用接続ケーブルで接続します。専用接続ケーブルの片側にはロックナットが付いています。ケーブルのロックナット側をピックアップミュート出力端子に差し込み、ロックしてください。

※ ロックナットのない側のプラグをピックアップミュートに接続することは、抜けやすいのでおやめください。

※ ピックアップミュート1/2端子**②**は、ピックアップミュート用の電源供給も兼ねていますので、他の機器は接続しないでください。

! 電源が入った状態で、**②**とピックアップミュートを専用接続ケーブルで接続する場合は、**マスターボリューム⑦**を最小にしてください。ボリュームをしばらく行なうと、大きな音量でノイズが発生し、聴覚障害の原因になりますので、注意してください。

2. ST7の電源ON/OFFスイッチ**⑤**を切り替えて電源を入れます。

3. ST7のヘッドフォン1端子**④**に付属のステレオイヤホンを接続し、R(右耳)/L(左耳)を間違えないように両耳にさし込みます。

(P.2 イラスト参照)

※ ヘッドフォン2端子**④**に他のステレオイヤホン(ヘッドフォンも可)を接続すれば、ST7の演奏音を2人で聴くことができます。

4. ピックアップミュートを、楽器のベルにしっかりとさし込みます。

⊘ ミュートをベルにしっかりと差し込んでください。
特に夜間は近所迷惑にならないようにご使用ください。

5. 演奏して、プレーヤー1ボリューム**⑥**とマスターボリューム**⑦**を回して、適度な音量になるように調整します。

プレーヤー1ボリューム**⑥**は、ピックアップミュート1端子**②**から入力された演奏音の音量を調整します。

マスターボリューム**⑦**は、ST7のすべての音量(プレーヤー1ボリューム**⑥**、プレーヤー2ボリューム**⑧**、AUX IN(入力)ボリューム**⑨**)を同時に調整します。(AUX IN(入力)**⑨**ボリュームが最小にしてあると、AUX IN(入力)**⑫**端子からのCD等の音は出ません。)

プレーヤー1ボリューム**⑥**、プレーヤー2ボリューム**⑧**をより良い状態で使うために、右図のように3時の位置をめやすとしてください。



※ プレーヤー2ボリューム**⑧**は、ピックアップミュート2端子**②**から入力された演奏音の音量を調整します。別売のピックアップミュートを専用接続ケーブルで接続すれば、ST7で2台のピックアップミュートの演奏音を聴くことができます。



大きな音量で長時間イヤホン(ヘッドフォン)を使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

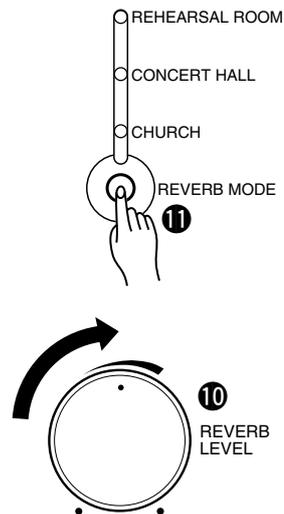


リバーブについて

ST7は3種類のリバーブモード(残響効果)を内蔵しています。

リバーブは②ピックアップミュート1/2端子から入力された演奏音に対してかけることができます。

1. ⑩リバーブレベルを中央付近まで回します。
2. ⑪リバーブモードボタンを押すと、3種類のリバーブモード(残響時間)が切り替わり、それぞれのランプが点灯します。
 - リハーサルルーム
室内で演奏しているような残響が付加されます。
 - コンサートホール
ホールで演奏しているような残響が付加されます。
 - チャーチ(最も長い残響)
教会で演奏しているような残響が付加されます。
3. ⑩リバーブレベルを回すと、リバーブのかかり具合(量)が変化します。右(時計回り)に回すとリバーブ効果が大きくなり、左(反時計回り)に回すとリバーブ効果が小さくなります。好みのリバーブレベルになるように調節し、演奏してみましょう。





外部機器との接続

■ 入力端子

ST7の⑫AUX IN(入力)端子は外部機器からのステレオ音声信号を入力する端子です。CDプレーヤーやテープレコーダーなどのオーディオ機器の出力端子とオーディオケーブルで接続すれば、外部機器の再生音をバックに練習することができます。

⑫AUX IN(入力)端子から入力される音声信号のボリュームは⑨AUX IN(入力)ボリュームで調整します。

■ 出力端子

ST7の⑬LINE OUT(出力)端子は、ST7のステレオ音声信号を出力する端子です。ステレオ、ミキシングコンソール、テープレコーダーなどの入力端子と接続すれば、ST7の演奏音を外部機器で鳴らしたり、録音することができます。

- ST7およびピックアップミュートを外部機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切ったうえで接続してください。また、外部機器の音量を最小にしてから接続してください。大音量で聴覚障害を起こしたり、機器損傷のおそれがあります。
- ST7の出力端子から送る音声信号を、直接、または外部機器を経由してST7の入力端子に、絶対に戻さないでください。発振を起こし、内部機器の損傷の原因になります。

● 磨耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する磨耗部品が使用されています。磨耗部品の劣化の進行度合いは、使用環境や使用時間などによって異なります。磨耗部品の交換は、お買上店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

